

障害者多機能型事業所

# 西陣工房

## ウクレレコンサート

～ウクレレ合奏を懐かしい歌にのせて～



ウクレレサークル練習風景

音楽は心を豊かにし、長年の練習相手である楽器は生涯の友となるものです。合奏することで仲間の輪が広がります。調和の取れた素敵な音楽を目指して個別に割り当てられたパートを必死に練習します。さらに他のパートと音程やタイミングや音量を合わせる練習をきっちりとやることで美しいハーモニーが生まれます。そこでは他への配慮を知ることになり友情のハーモニーも生まれます。こうしたことを25曲以上について繰り返して今日を迎えることができました。演奏する曲目は、今では余り歌われなくなりましたが、演歌師によって広められた古い曲から、音楽の授業、式典、レコード、ラジオ、テレビなど様々なメディアによって全国に伝えられて来た日本人ならみんなが知っている、そして若い人も知るべき、日本の宝とも言える懐かしい名曲ばかりです。西陣工房ウクレレサークル16年の集大成としてのこのコンサートが皆さんの記憶の蓋をこじ開けて幼き日々を思い起こしていただければ幸いです。どうか西陣工房ウクレレサークルの実力をとくにご鑑賞ください。

出演 西陣工房ウクレレサークル  
協力 CK ミュージックスターズ

### Program

#### 第1部 季節の歌、懐かしい歌

さくらさくら おぼろ月夜 うれしいひな祭り みかんの花咲く丘 もみじ ほか15曲

#### 第2部 実存音楽療法の勧め 講師 店村真知子

#### 第3部 小編成と友情出演

#### 第4部 名曲を訪ねて

丘を越えて 川の流れるように 翼をください 356日の紙飛行機ほか 8曲



2025 4 / 29 昭和の日 14:00開演 [13:30開場]

会場 府民ホール アルティール

〒602-0912 京都市上京区烏丸通一条下る龍前町590-1 TEL/075-441-1414

入場無料 (全席自由)

【主催】社会福祉法人京都西陣福祉会

【後援(予定)】京都府、京都市、読売光と愛の事業団大阪支部、京都新聞社会福祉事業団

【お問い合わせ】障害者多機能型事業所 西陣工房 電話 075-462-9101 info@nishijinkoubou.com

# 西陣工房が目指して来たもの

## ～伝福連携（でんふくれんけい）と西陣工房～

西陣工房は2004年に開所した就労継続支援B型事業所です。創業時からしっかりと利用者向き合っ利用者得意な能力を發揮して社会に役立つ仕事を模索してきました。行き着いたのは地元伝統産業の西陣織。ここでは障害者施設の美術工芸では常識と言えるアールブリュットと真逆の、古来から引き継がれた緻密、繊細な作業を踏襲する職人の価値観が必要とされます。西陣工房では日々の施設での生産活動を西陣織の1事業所の仕事と位置付け、利用者をその産業の後継者として訓練する「伝福連携」の理念を確立。多くの障害者がある持てる潜在能力に火を付けて、基礎的な技術をマスターした上でまじめに仕事を継続することで、必ず一人前の職人になれること実証して来ました。



伝福連携の実践としての製織作業

## ～ウクレレ（音楽）と西陣工房～

西陣工房では、仕事をする事で社会の役に立って収入を得る事以上に、利用者の人格を成長させることが重要と考えております。そのためにも、利用者同士が常に向上心を持って共通のテーマに向かって仲良く協力して、楽しく活動することを求めてきました。仕事に加えて、スポーツ（卓球バレー）と音楽（ウクレレ）を継続的に取り組むサークル活動として位置付け、単発的には合宿、日帰り旅行、ハイキング、市内散策、映画鑑賞、百人一首大会など多彩なリクレーションを実施して、テレビゲームなどに偏りがちな利用者の社会経験を多彩にすることを目指して来ました。音楽活動においては当初合唱に取り組みましたが、知的障害者には正確な音程を安定して歌うことが難しく、ハイレベルに曲を仕上げるのが困難との判断から、小型で、安価な楽器であるウクレレ合奏に切り替えました。当初はなかなか馴染めなかったウクレレですが、10年以上の歳月を経てついにこの日を迎えることができました。

## ～ウクレレコンサートで目指すもの～

伝統産業にも音楽にもアールブリュットはありません。知的障害者にとって歌は難しいけれどウクレレなら基本に忠実に練習を積み重ねることで安定した美しいメロディーが奏でられ、それが2つ以上合わされば美しいハーモニーになります。楽譜だって読めるようになります。継続して練習すればできるのです。こんな当たり前のことを知っていただきたいのです。演奏する曲はほとんどを3部合奏に編曲し、高校音楽程度のレベルになっております。CKミュージックスターズの演奏家の応援を頂くことでさらにブラッシュアップされ素敵な仕上がりになると確信しております。第2部では日本でまだほとんど知られていない音楽療法における最新の世界的潮流である実存音楽療法の第1人者、店村眞知子先生の講義も用意しております。優れた音楽によって心が揺さぶられ、病んだ心が治癒されるという、誠に私たちも通じる衝撃的な内容です。どうか西陣工房ウクレレコンサートにお越し頂き西陣工房利用者達の練習の成果をご視聴いただきますようお願い申し上げます。



## 店村眞知子（たなむらまちこ）ピアニスト 音楽療法士

京都市左京区に生まれる。(故)父は同志社大学商学部フランス文学教授、音楽評論家。兄は(元)NHK交響楽団ソロ・首席ピオラ奏者、(旧サイトウキネンオーケストラ首席ピオラ奏者)として世界的に活躍する。自身はピアニストでありながら精神医学、心身医学、全人的医療の世界に入り、科学的に音楽の心身に及ぼす影響を研究した。医療の世界からは、「新しい音楽の世界を開拓し実践する研究者」と言われている。現在は「実存音楽療法士」として市民個々の積極的な全人的健康創りのための講演会活動を行っている。日本で名だたる音楽家ファミリーの一員である。

神戸女学院大学音楽学部ピアノ科卒業後、兄と共にイタリアフィレンツェに留学。イタリア滞在中は兄とデュオを組みフィレンツェを中心に演奏活動を行う。納あって室内楽の大家に伴奏法を習う機会を多く持つことができ、特にバイオリニストでありながら、室内楽におけるピアノ奏法の熟達者であった江藤俊哉氏に多く師事することができた。このことはその後の音楽療法におけるピアノ演奏技術の熟達にとって郭大なる可能性をもたらされることになった。イタリアでは高水準なピオリストであるピエロ・ファルツリ氏、モーツァルト歌い手で世界的声楽家のジュザンヌ・ダンコ氏、ピアニストの原智恵子氏、田中希代子諸氏に師事することができたが、中でもイタリア留学中に兄から音楽構築に関する奥行き深い教授を受けた影響は、後年になって「音楽療法としてライブ演奏スタイルを用いて治療する手法」において計り知れない好結果がもたらされることとなった。イタリア留学から帰国後は、「ピアノ指導にこそイノベーションが必要」との思いから、ウィーンで精神医学者であったヴィクトール・フランクル研究所と事業提携する国際全人医療研究所の所長永田勝太郎医博のもとで、精神医学と心理学、全人的医療を学ぶ。40歳以降、音楽療法の科学的検討を開始し、重症の「慢性疼痛患者のアーティスティック治療」や、西洋医学で治療の難しい「心身症」に対するミュージックセラピーを行ってきた。

1972年大阪芸術大学非常勤講師、2002年聖隷クリストファー大学社会福祉学部子ども教育福祉学部准教授。2015年退官。現在は音楽と全人教育研究所代表。現在は75歳。71歳になったとき、「やっと人生のスタート台に立った！」と叫んだ。「健康長寿の専門家」でもある。